

菊朋会東京支部 40 年史



菊池電車

菊池高校旧校舎

菊朋会東京支部は母校菊池高校の創立 70 周年を契機として、昭和 55 年（1980 年）5 月に設立されました。

爾来、初代会長福島嗣郎氏、第 2 代会長小池圭一郎氏、第 3 代会長平山正剛氏のご努力と同窓の皆様のご協力に今日まで引き継がれ、平成 28 年（2016 年）9 月、微力ながら私が会長を仰せつかりました。

その後、新型コロナ感染拡大により 3 年間総会が開催できませんでしたが、今年、40 回の記念大会を迎えることができました。

この度、東京支部の設立に尽力いただきました諸先輩の皆様方に当時の設立の思い出などをご寄稿いただきましたので、皆様にご覧いただければ幸いです。

最近、熊本県への大型企業の進出により、郷土菊池も大いに活性化していると聞いています。やがて母校や菊朋会にもその影響が波及し、ひいては東京支部にも及ぶことを期待しています。

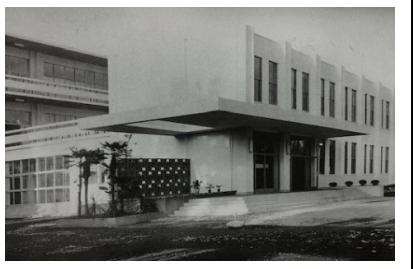
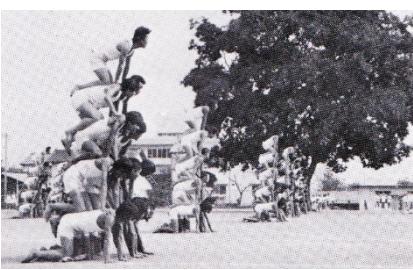
東京支部発足時の初心にかえり活気のある東京支部を目指していきたいと思います。皆様には、引き続き、母校菊池高校へのご支援をお願い申し上げます。

令和 5 年 9 月 16 日

菊朋会東京支部会長
高宗 俊雄

目次

1. これまでの東京支部の開催状況
2. 東京支部設立の思い出など
 - (1) 平山正剛様（昭和 28 年卒）
 - (2) 小西元子様（昭和 34 年卒）
 - (3) 穂積政治様（昭和 37 年卒）
 - (4) 坂本敏正様（昭和 37 年卒）
 - (5) 古市左千夫様（昭和 39 年卒）

菊池高女旧正門	菊池高校旧校舎	新築時の菊池高校校舎
		
菊池高校正門	現在の菊池高校	菊高創立 70 周年式典(1980 年)
		
昭和 3 年体育祭剣道部行進	体育祭	菊池神社鳥居
 昭和三年体育祭 剣道部の入場行進		
旧菊池駅舎	花房台の電車	旧広瀬駅
		
寿温泉食堂	市役所近くの水車	能舞台
		

菊朋会東京支部の経緯

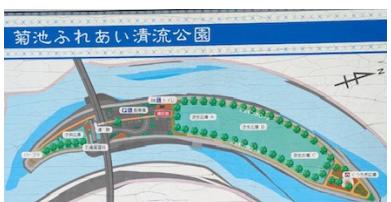
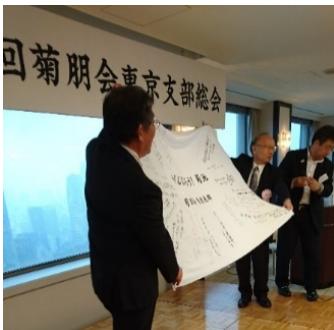
	年月日	場所	参加者数	会長	参考
第1回	S55.6.11	ニューシティ	200	福島嗣郎氏	菊高創立 70周年
2回		ニューシティ			
3回	S57.10.8	東京大飯店			
4回	S58.11.19	東京大飯店	120		↓
5回	S60.3.31	東京大飯店	117	小池圭一郎氏	
6回	S61.9.7	東京大飯店	150		
7回	S62.9.6	東京大飯店	100		
8回	S63.9.4	東京大飯店	120		
9回	H元.9.10	東京大飯店	130		
10回	H2.9.9	霞が関ビル	230		
11回	H3.9.8	霞が関ビル	170		
12回	H4.9.13	霞が関ビル	120		
13回	H5.9.12	南国酒家	180		
14回	H6.9.11	霞が関ビル	110		
15回	H7.9.3	霞が関ビル	107		↓
16回	H8.9.8	霞が関ビル	103	平山正剛氏	
17回	H9.9.7	霞が関ビル	166		
18回	H10.9.6	霞が関ビル	124		↓

19回	H11.9.11	霞が関ビル	95			
20回	H12.9.17	霞が関ビル	155			
21回	H13.9.8	霞が関ビル	145			
22回	H14.9.7	霞が関ビル	108			
23回	H15.9.13	霞が関ビル	96			
24回	H16.9.12	霞が関ビル	98			
25回	H17.9.10	霞が関ビル	80			菊高 100周年募金
26回	H18.9.9	霞が関ビル	93			
27回	H19.9.8	霞が関ビル	96			
28回	H20.9.27	霞が関ビル	97			菊高創立 100周年 桜苗木 1,000本寄贈
29回	H21.9.26	霞が関ビル	102			
30回	H22.9.25	霞が関ビル	96			
31回	H23.9.10	霞が関ビル	70			
32回	H24.10.13	霞が関ビル	81			
33回	H25.9.28	霞が関ビル	59			
34回	H26.9.27	霞が関ビル	78			
35回	H27.9.28	霞が関ビル	65			
36回	H28.9.24	霞が関ビル	61			熊本地震募金
37回	H29.9.30	霞が関ビル	53	高宗俊雄氏		
38回	H30.9.15	霞が関ビル	58			

39回	R元.9.21	霞が関ビル	44		
(新型コロナで3年間開催中止)					
40回	R5.9.16	アルカデイ市ヶ谷			

初代会長福島嗣郎氏	第2代会長小池圭一郎氏	第3代会長平山正剛氏
第4代会長高宗俊雄氏	第3回総会(1982年)	第5回総会(1985年)
第10回総会(1990年)	第11回総会(1991年)	第12回総会(1992年)

第14回総会（1994年）	第15回総会（1995年）	
		
第21回総会（2001年）	第30回総会（2010年）	第31回総会（2011年）
		
第32回総会（2012年）	第33回総会（2013年）	第34回総会（2014年）
		
第35回総会（2015年）	第36回総会（2016年）	第37回総会（2017年）
		

第38回総会（2018年）	第39回総会（2019年）	菊朋会高宗昭敏会長と
		
第28回総会で寄贈した桜（2009年3月植樹）。	菊池ふれあい清流公園の桜	大きく成長した桜並木です
		
熊本地震で菊池市も大きな被害を受けました（2016年4月）	地震の被害	地震の被害
		
熊本地震の復興支援の寄せ書きと募金を送りました	第33回総会イベントの信岡さんのスチールギター	第34回総会のゲスト須藤さんと中尾さん
		

第38回総会ゲスト長谷部さん	第38回総会ゲスト岩橋さん	第39回総会ゲスト廣石さん
		

菊朋会東京支部設立の思い出など（寄稿集）

1. 「菊朋会東京支部第40回総会への寄稿」（昭和28年卒業 平山 正剛）

母校が創立70周年を迎えたのを機に、菊朋会東京支部を立ち上げようとの機運が高まり、1回生の福島嗣郎氏、同じく渕上衛氏、2回生の小池圭一郎氏や5回生の私たちが中心となり準備を重ねてきました。そして、昭和55年6月、ニューシティーにて、約200名の出席者のもと、当時の山品三徳校長をお迎えして第1回の菊朋会東京支部の総会を開催しました。設立の目的は、母校に感謝の念を持ち、郷土の発展に寄与し、かつ、会員相互の親睦を図ることになりました。

当時の役員には上記の方々以外に、1回生の岡本純子氏、皆の目標であった1回生の千田哲郎氏、2回生の森文博氏等々意気盛んな方々がありました。また、その後本部の会長として活躍された3回生の高宗昭敏氏にはずいぶん激励を戴いたことを覚えています。

初代会長は福島嗣郎氏、2代目は小池圭一郎、3代目を私が引き継ぎました。私は第16回の総会から第36回まで勤めました。その間、菊池市長、歴代高校長、本部会長や恩師等をお招きして、卒業生イベントも交え会員の交流を深めてまいりました。会場も多くは霞が関ビルの東海大学の会館を利用しました。例年100名以上の出席者が集い賑やかな総会が開催できました。これも、会員の方々のご協力と役員の方々のご尽力の賜物と感謝しています。

私の在任中、特に思い出に残っていることは、母校の創立100周年に合わせて桜の木を寄贈したことです。会員の皆さんから多額の寄付を頂き菊池川のほとりに植樹ができました。また、平成28年の熊本地震に対しては皆さんに呼びかけ菊池市に150万円の義援金を贈ることができました。

今年は第40回の総会です。総会が長く続いているのは会員の皆さんのが校愛と郷土愛に支えられているからです。しかし、東京支部の会員の高齢化と新規加入者の減少により年々出席者も減少の傾向にあります。以前のように多くの卒業生が東京に集まり、元気で活気のある東京支部に発展することを願っています。

最後に、40年間に多くの方々が物故者となられました。改めてご冥福をお祈りします。

2. 「自由な菊池高校生活」（昭和34年卒業 小西 元子）

菊朋会東京支部40回総会おめでとうございます。

菊池高校時代は、自由で楽しい学校生活でした。菊朋会東京支部の総会には早い時期から出席していました。その頃は先輩方が多く私は会場の後ろの方にいましたので、当時の福島会長は遠くに見えていた記憶があります。その後、会を重ねて私も東京支部のお手伝

いをさせていただきました。今まで東京支部が続いているのは、多くの方々が一生懸命ご尽力されたお陰だと思います。

今後もいつまでも東京支部が続くことを願っています。

私の思い出の写真を提供します。熊本から同級生の誰かが上京してくると、こちらにいる多くの同級生が私の家に集まり懇親会を開きました。楽しいひと時でした。年に1回ないし2回集まったと思います。

写真は、私たちが70歳頃、平成22年頃、私の自宅で撮ったものです。80歳になるまで続きました。



3. 「今後の菊朋会東京支部役員の確保策」 (昭和37年卒業 穂積 政治)

菊朋会東京支部役員への入会について、私が東京支部の一員となったきっかけというのはたまたま同級生で上京後も親交があり既に東京支部において活動していた坂本敏正夫妻からの強い入会の勧めがあり入会の気持ちを固めました。

当時入会したのは私一人で、新橋の事務所には先輩諸氏が沢山いて若輩の私は緊張しながら活気にあふれて活動したことが思い出されました。

そのころから新しい会員の入会がなく、一時的に私の同級生で女性二名を加入させましたが数年で退会していき、更に坂本夫妻が突然菊池に帰省する事態に見舞われ、私としては同期がいなくなる気持ちで淋しい気持ちになりました。

坂本夫妻の後任としてやはり同級生の田上宗敏君が入ってきて、二人とのコンビは現在まで続き、総会のアトラクションのbingoゲームで二人で頑張っています。

田上君が入った後は新しい入会者がなく現在までできてしまい、今のところ後輩の若手が数人いて、なんとか会の運営は維持していますが将来のことを考えると早急に新しい役員候補の確保について役員会での協議をしなければならないと思っております。

3. 「菊朋会・東京支部第40回総会に寄せて」 (昭和37年卒業 坂本 敏正)

名古屋から東京に転勤になった年、昭和54年の夏頃だったと思うが、先輩から「菊朋会・東京支部設立の手伝いをしてくれないか」との誘いを受けたのが、私の菊朋会活動の始まりだった。当時36歳だった。東京支部第40回総会に当たって、37年卒理事、監事、事務方、事務局長として従事した33年間の思い出を振り返ってみたい。

スタート時の役員会は、喫茶店でコーヒーワン手前持ちのささやかな会だったが、数年後には、平山先輩のご厚意で平山法律事務所にお世話になることになった。それ以降、同窓生が安心して集える拠点となって、山本さんははじめ事務所スタッフの方々の全面的サポートも得て、今日に至っている。

東京支部の活動は、ひとえに平山先輩の物心両面にわたってのお心遣いのお蔭だと、感謝の思いも新たになります。役員会の日には、それぞれ勤務を終えた年次の役員達が三々五々集まって、8時過ぎには会議は終了。その後は、一回生の先輩・岡本純子さん経営の、新橋にあった居酒屋「隈府」にて、和気あいあい談論風発の時間となった。そしてそれは終電車近くまで続くのが常で、今となっては、古き良き時代の何とも懐かしい思い出となつた。

当時は、母校や故郷への思いが強く、その思いは自然と母校や故郷のために少しでも役に立ちたいと燃えていた先輩・同輩・後輩が多かったように思う。特に、新制菊池高等学校への移行直後の先輩達の意気込みは強く、エネルギーに満ち溢れていて、後輩達をも自然とその思いにさせてしまう、熱い何かがあった。

福島嗣郎・渕上衛・岡本純子（以上1回生）、小池圭一郎（2回生）、高宗昭敏・石倉勢子（3回生）、水上洋・宮本皓元（5回生）、細野末雄・東誠（8回生）、城英介（12回生）岩尾経史（13回生）（敬称は略。）、他にも名前は省略させてもらうが、草創期に活躍された先輩の方々は、鬼籍に入られた方も多く寂しい限りだ。

年に一度の総会は、招待した恩師や同窓生に会える楽しみがあり、お互いの健康を確かめ合ったり、思い出話に花が咲いたりと、心置きなく過ごせる場ともなった。特筆すべき

は城英介先輩、東京にあって終始一貫熊本弁で通されるその姿は、みんなの郷愁を招き、羨ましささえ感じる存在だった。最後の、肩を組んで歌う校歌齊唱では「風かおる菊池の宮居・・・」と大声を張り上げたものだが、何だか明日への活力をもらう気がしていた。

私は、平成24年3月に帰郷し菊池市民となって11年が過ぎたので、最後に地元に住む卒業生としての御報告を致します。平成20年・菊池高校が創立100周年を迎えた時、東京支部では、寄付金応募とともに桜の苗木を贈ろうとの声が上がりました。その苗木は、菊池川・藤田橋一帯に整備された「清流公園」に31本、菊池公園の弓道場入口に10本植樹されて、14年を経た今では立派な桜の樹となりました。写真は、清流公園の満開の桜ですが、桜に囲まれた広場では子供達が遊びに興じ、その周りを、自分のペースで歩いて汗を流す老若男女の姿があり、みんなの憩いの場となっています。

尚、100周年記念事業の寄付金目標額（7千万円）の一割を、東京支部で達成しましたが、この資金は現在も、現役菊高生達への奨学金等々に、有効活用されていることをお伝えします。

菊朋会・東京支部設立から今日までを振り返ることは、ひいては自分自身のほぼ半世紀を振り返る時間となりました。懐かしい先輩達の当時の姿や声音までもが甦っては、温かい思いになつたりして良い時間ともなりました。

私達は、夫婦共々今年傘寿を迎えました。それぞれが、微力ではあっても自分達に出来ることで、ふるさと菊池の役に立てればとの想いで、帰郷以来の時を過ごしてきましたが、今やすっかり「菊池人」です。

皆様のご健勝と御多幸を故郷の地から祈っております。帰郷の際は、どうぞお声をかけて下さい。



2022年3月30日撮影



桜の木の傍らには「菊池高校創立百周年記念植樹 菊朋会東京支部 平成21年3月」と明示されています。



送別会の写真(2012.3.)

5. 「福島初代会長との出会い」

(昭和39年卒業 古市 左千夫)

熊本混成合唱団（元 NHK 放送合唱団）のOB・OG 80名から成る60周年記念コンサートを熊本県立劇場（1800席）で前日終えたところです。この劇場は、大学時代に在籍し後の人生のために社会学を培った恩のある場所でもあります。50数年の時を経て帰郷し、再び小生に企画・実行の総責任者として依頼があり、器量を持ち合わせていませんが、使命感を以てこれを引き受け、今日活動をしています。

昭和36年（1961年）西合志中学校から、大学進学や社会人への夢の目標を抱いて菊池高校へ入学しました。菊池高校は菊池郡や近郊の中学校のトップクラスの集合体で級友の学力の高さを知らされたものです。全学一家の面持ち、個性あふれた教職員の方々の情愛故の厳しさ、毎月曜日、当時の山内校長（1・2年生時）泗水校長（3年生時）の人生哲学の含蓄のある朝礼挨拶など思い出します。また、校歌「風薰る菊池の宮居……」を笑顔で指揮される安見朱實先生のもと唄った校歌齊唱にどれほど癒されたか。

4年間の学生生活を終え上京、「カントリーボーイ」は相変わらずでしたが、少しづつ都会生活に関わりかけた頃、新橋の鳥森の隈府（わいふ）という名の店で一人の男性からお誘いを受けたのが菊朋会との最初の出会いでした。暖簾をくぐると、上機嫌の同窓生の皆さんがありました。酒を飲めなかった、飲んだ事のない小生が酒の味に覚醒し、酒好きの今日に至ったのはこの時からです。その時の一人の男性とは一回生で初代会長の福島嗣郎先輩でした。先輩は、親身あるいは淡々とした語りで話題の豊富な人、再会が楽しみな人でし

た。熊本大学を中退し東京大学へ再入学した理由や、父君が小生の西合志中央小学校の時の義男校長で縁戚である事も知らされたものです。

半世紀に渡る東京での生活でした。年一度の集まりだけでなく、お祝い事、スポーツ（ゴルフ等）など何かにつけて、平山正剛会長や多くの方々と全学一家の思い楽しく過ごしました。演出してくださった皆さんにお礼申し上げます。

冒頭に触れましたが、母校で音楽を選択し自動的に合唱部へ入部、安見先生にお会いした縁で、全くの素人が好きが高じて合唱に携わり、以来校歌を発生練習の一曲として嗜んでいる今日です。

菊池高等学校校歌

作詞 上田 英夫

作曲 高田 三郎

一、風かおる菊池の宮居
み啓示は胸にしめつ
移る世のにごりをよそに
永遠の真実氣高く
若き日を我らは励む
誇りあれこれの学舎

二、平和の光あまねき
広庭にしげる椋の木
夏草の古き伝統を
新た世に今生かすべく
若き日を我らは励む
榮えあれこれの学舎

三、大阿蘇の高き火柱
燃えたぎつ情熱もあつく
菊池川澄める瀬鳴りと
近つ世の知恵は冴えと
若き日を我らは励む
あれこれの学舎

学校沿革概要 (菊池高校ホームページより引用)

明治 41. 9. 23 隅府町外11ヶ村組合立 菊池女学校設立
44. 組合立菊池実科高等女学校

大正 2. 8. 菊池軌道 熊本～隅府間全通
4. 10. 校歌制定 作詞作曲 犬童球溪
9. 3. 31 熊本県菊池高等女学校と改称

12. 熊本県立隅府高等女学校と改称

昭和 8. 4. 1 熊本県立菊池高等女学校と改称
20. 2. 25 学徒動員 花房飛行場入廠式
20. 9. 14 授業再開
22. 教育基本法の制定 学制改革により、六・三・三制となる
23. 4. 1 熊本県立菊池高等学校と改称（男女共学実施）
24. 4. 1 菊池農蚕高等学校の統合により、熊本県立菊池総合高等学校と改称
28. 4. 1 菊池農蚕高等学校分離独立に伴い、旧校名菊池高等学校に復帰 校歌制定
29. 10. 28 隅府町温泉湧出
33. 8. 1 菊池市市制施行（隅府町、河原村、水源村、龍門村、迫間村、菊池村、花房村、戸崎村）
34. 3. 31 創立50周年記念式典
34. 4. 11 火災により校舎の大半が焼失する
35. 10. 8 本校舎鉄筋三階建て新校舎完成。落成式
43. 10. 5 創立60周年記念式典挙行
48. 11. 松囃子御能が「国重要無形民族文化財」に指定を受ける
49. 7. 図書館棟竣工
50. 校内のチャンチンモドキが菊池市の天然記念物に指定
56. 「菊高音頭」作曲 福島崇美 作詞 有田経裕 振付 赤星朋昭
61. 2. 15 熊本電鉄 御代志～菊池駅間の鉄道廃止
63. 10. 9 創立80周年記念式典挙行 吹奏楽部県大会最優秀賞・金賞受賞
平成 5. 10. 16 創立85周年記念大文化祭開催
10. 10. 3 創立90周年記念式典挙行
20. 11. 7 創立100周年記念式典挙行 新校舎落成

菊朋会本部のホームページとfacebookです。ご覧ください。

